

「鳥居・井上基金」助成実施報告（2024 年度第 1 回，A-研究集会支援）

提 出 日：2024 年 12 月 24 日

氏名・所属：伊藤 健吾（東京大学大学院理学系研究科 附属地殻化学実験施設）

集 会 名：第 1 回日本年代測定ワークショップ（Japan Chronology Workshop）

会 場：名古屋大学宇宙地球環境研究所

期 間：2024 年 12 月 13 日（金）

ワークショップの概要

本ワークショップは、放射年代測定法に関する基礎的な内容に重点を置いた発表を行う場です。専門家だけでなく、これから年代測定法に携わる可能性のある研究者や学生の方々にも広く参加を呼びかけました。本ワークショップの開催は、2023 年度から開始した地球惑星科学連合大会における年代測定セッション「ハイブリッド年代学」で、多くの研究者や学生から年代測定に対する関心とその基本原理の理解に対する需要が寄せられたことを背景としています。本年度より初めて企画された本ワークショップを年代測定法に関する研究交流の場としても今後活用していきたいと考えています。

会場は名古屋大学宇宙地球環境研究所を使用し、単日の講義形式で開催しました。鳥居・井上基金から頂いた助成金は、講義を担当して頂く講師の旅費補助に主に使用しました。

研究会の内容・感想

初開催となる本ワークショップでは、参加者数が未知数であることから不安もありました。しかし、最終的には参加登録者 44 名（うち学生 24 名）（図 1a）に加え、講演者 7 名を迎え、総勢 50 名規模の大きな集会となりました。特に、参加者の約半数がこれから年代測定に取り組もうとしている学生で占められたことから、初学者にとって学びの場を提供するという当初の目的を達成できたと感じています。ワークショップ後のアンケートでは、「年代測定を始めようと考えている自分にとって非常に参考になる内容でした」との声も寄せられ、一定の成果を実感しています。

一方、大学や企業の研究者の参加も全体の約 4 割を占め、年代測定が地球惑星科学を研究する上で非常に重要な分野であることを改めて認識する場ともなりました。当日のワークショップは、若手研究者や未来を担う学生を中心に、講演者 7 名による講義形式で進行了ました。プログラムは基礎編（第 1 部～第 4 部）と応用編（第 5 部～第 7 部）の二部構成

とし、以下の内容で行いました（敬称略）。

- **第1部:**放射 性 同 位 体 と は（京都大学、金鐵祐）
- **第2部:**年 代 測 定 の 原 理（東京大学、高橋慶多）
- **第3部:**ウラン-鉛年代測定法の基礎（名古屋大学、仁木創太）
- **第4部:**デ ー タ の 取 り 扱 い（京都大学、工藤駿平）
- **第5部:**年 代 測 定 の 前 提 条 件（東京大学・京都FT、岩野英樹）
- **第6部:**地質学における年代データの活用（日本大学、長田充弘）
- **第7部:**最 新 の 技 術 と ト ピ ッ ク（東京大学、伊藤健吾）

講演者の皆さまには、多忙な中で発表資料の準備や発表練習にご協力頂きました。この場を借りて、深く感謝申し上げます。各講義では、発表 25 分、質問 15 分の形式を採用し、ディスカッションに重点を置きました。多くの講義で質問時間が足りなくなるほど活発に議論が行われ、会場は熱気に包まれていました。集会後のアンケートでは、「初めてのワークショップに期待以上の学びがあった」といった喜びの声が寄せられ、講義内容も難解すぎず、かつ平易になり過ぎない適切なレベルであったとの評価を頂きました（図 1b）。

特に、参加者の関心の多くは実際のデータの取り扱いやその応用例に向けられていました（図 1c）が、基礎原理の理解なくして応用の発展は今後ないと考えています。そのため、本ワークショップでは基礎編と応用編の二部構成を重視し、今後もこの構成を維持しつつ、さらに多くの方にとって有意義な場となるよう努力を続けてまいります。最後に、本ワークショップの開催を支援していただいた鳥居・井上基金に深く感謝申し上げます。今後も本会を継続し、年代測定法の研究と普及に貢献していきたいと考えています。

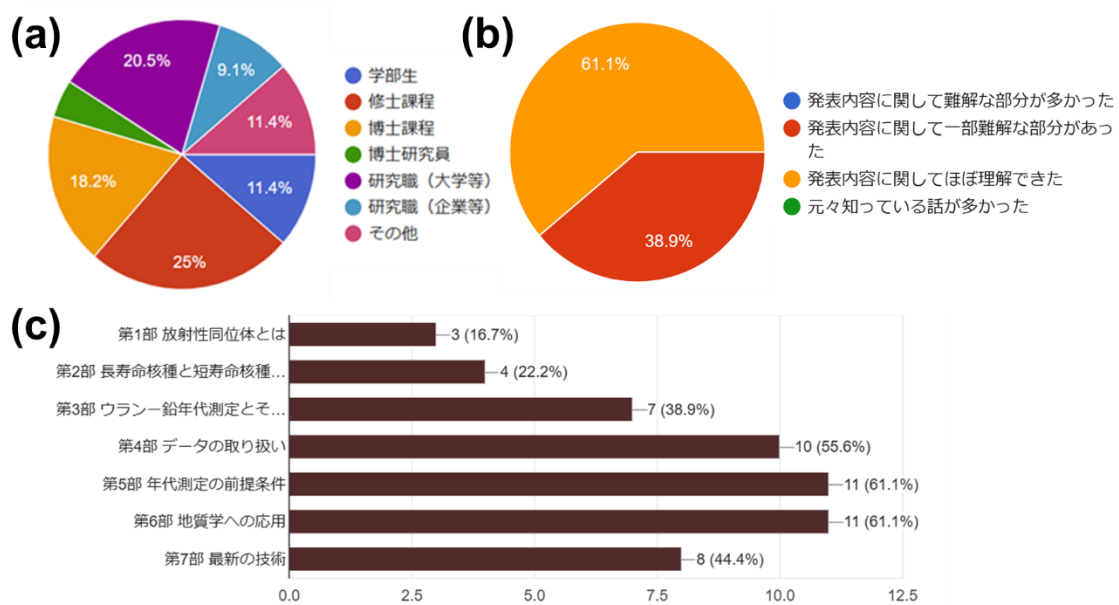


図1：(a) 参加者の区分、(b) 発表内容の難易度に関して、(c) 本ワークショップで関心があった分野((b), (c)については事後アンケート結果より抜粋)。



集会当日の様子